

平成27年度全国学力・学習状況調査の 分析結果と指導改善の方策がまとまりました

4月21日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の仙台市立学校の調査結果については8月に発表しましたが、このたび「仙台市確かな学力研修委員会^{※1}」による分析結果と、それを基にした指導改善の方策がまとまりましたので発表します。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立てていきます。

1 教科に関する調査分析結果と指導改善の方策（資料1参照）

（1）分析結果について（教科別の全国平均正答率と市平均正答率の状況）

小学生の平均正答率については、国語のA問題、B問題、算数のA問題、理科、中学生は、全ての教科で、全国・宮城県・大都市を上回りました。

算数のB問題は、全国平均と同等で大都市の平均正答率を下回りました。

（2）指導改善の方策について

全国平均正答率を下回った問題を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。

（3）今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策について、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かします。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査分析結果と指導改善の方策（資料2参照）

（1）分析結果について

①家で、自分で計画を立てて勉強したり、学校の授業の予習や復習をしたりしている児童生徒の割合が、全国と比べて高くなっています。

②国語では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童生徒の割合が、理科では観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている児童生徒の割合が、全国と比べて高くなっています。

③自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は低く、中学生は同程度になっています。

④友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思っている児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は低く、中学生は同程度になっています。

（2）指導改善の方策について

課題のあった内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。

（3）今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策について、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かします。また教育委員会でも、「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト委員会^{※2}」においてさらに分析を進めます。

*** 詳細は別添の資料をご覧ください**

※1 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭を委員とし、仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査結果等の分析を行います。

※2 学習意欲の科学研究に関するプロジェクト委員会

東北大学の川島隆太教授をはじめとする研究者と、市内小中学校の校長や仙台市教育委員会で構成し、学校現場での経験や実例、学習意欲に関するデータなどを基に、脳科学や認知心理学の観点から学習意欲について科学的に分析し、学習意欲に関した提言を行ったり、教育施策へ生かしたりしています。

資料 1

平成 27 年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策（概要）

※ 全国平均値を特に上回った内容を成果、下回った部分を課題として指導改善の方策をまとめました。

（詳細は P 3～1 2 を参照）

＜小学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語 A	① 漢字を読み書きすること。	① 文の主語や、文の型として適切なものを選択すること。	➡ 文の型について、カードを用いて並び替える活動をさせるなど視覚的に捉えさせながら、理解を深めさせる指導を行う。
	② 物語文の登場人物の人間関係を捉えること。	② 筆者が引用している言葉を文章の中から、書き抜くこと。	➡ 引用という用語の指導とともに、引用文を入れた作文を書かせたり、サイドラインを引かせながら読ませたりする指導を行う。
国語 B	① 音読する際の工夫することと、その理由を書くこと。	① 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら新聞の記事を書くこと。	➡ 実際に新聞を目的や意図に応じて書かせたり、事実と感想や意見などを区別させたりする指導を行う。
	② 新聞の見出し表現の工夫について適切なものを選択すること。	② 図に示された内容を読み取り、関連する文章の内容を押さえながら、自分の考えを書くこと。	➡ 図やグラフなどが、文章のどこに取り上げられているのか、どのような効果があるか捉えさせる指導を行う。
	③ 学校新聞の割り付けとして適切なものを選択すること。		
算数 A	① 加法において計算の確かめを行うこと。	① 末尾の位のそろっていない小数の減法を行うこと。	➡ 0. 01 を 1 として、整数の計算に置き換える活動などを重視し、同じ位どうしの計算を確実にさせる指導を行う。
	② 角のおよその大きさを、2 直角、3 直角を基に捉えること。	② 分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めること。	➡ 2 直角と 3 直角の間になることについて、見当をもたせた上で、補角を用いて測定させる指導を行う。
	③ 二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めること。	③ 示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質をもとに考えること。	➡ 三角形が二等辺三角形になる場合と、ならない場合を比較させ、違いを説明させる指導を行う。
算数 B	① 平行四辺形の作図に使う図形の約束や性質を理解すること。	① 比較量と割合から、基準量を求めること。	➡ 基準量、比較量、割合の関係を数直線で表させるなど、数量の関係を表現させる指導を行う。
	② 図形の性質を言葉と記号を用いて記述すること。	② 四捨五入し千の位までのおよその数にして、計算すること。	➡ 四捨五入を日常生活の場面と結び付け、結果の見通しをもつことが有効であることを実感できるような指導を行う。
	③ 数の切り上げについて理解すること。	③ 分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を説明すること。	➡ 根拠が不足している説明を例示して、必要な根拠を満たす説明に表現し直す指導を行う。
理科	① 観察器具の名称を書くこと。	① メダカの雌雄を見分けること。	➡ 「雌雄が一緒にいないと産卵しない」事実を踏まえ、メダカの雌雄を見分けることの必要感をもたせ、調べさせる指導を行う。
	② 水蒸気は水が気体になったものであることを理解すること。	② 電磁石の働きを利用した振り子について、実験結果を基に、考えを見直すこと。	➡ データをまとめた表やグラフから考察させ、根拠や理由を基に自分の考えを説明させる指導を行う。
		③ 水の温まり方について、実験結果を基に、考えを見直すこと。	➡ 実験の計画立てさせることにより見通しをもたせ、他者との比較から、自分の予想や仮説を検討させる指導を行う。

＜中学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語 A	① 漢字を読み書きすること。	① 言葉の品詞を判別し適切なものを選択すること。	➡ 例文を使って比較したり書き換えたりして、品詞が文の中で果たす役割の違いについて理解させる指導を行う。
	② 手紙の後付けの直し方や、その理由を選択すること。	② 用いられている表現の工夫を判別し、適切なものを選択すること。 ③ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。	➡ 文章の表現に即して、表現技法の名称や効果について考えさせたり、標語作り等に取り組みせたりするなどの指導を行う。 ➡ 語句の意味を文脈の中で捉えさせたり、似た意味を表す別の言葉に言い換えさせたり、比較させたりする指導を行う。
国語 B	① 資料を活用して話すこと。	① 複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを書くこと。	➡ 複数の資料から得た情報を通して、自分が感じたことや考えたことを明確にし、文章としてまとめさせる指導を行う。
	② 目的に応じて要約したり、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けたりすること。	② 文章の構成や展開などを踏まえ根拠を明確にして自分の考えを書くこと。	➡ ある場面や最後の一文を設定した作者の目的や意図、その効果について考えさせる指導を行う。
数学 A	① 方程式を目的に応じて変形させること。	① 連立二元一次方程式をつくること。	➡ 方程式をつくる際、問題の中の数量を表や図を使って整理させるなど、相当関係にある数量を見出させる指導を行う。
	② 比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求めること。	② 証明の必要性和意味を理解すること。	➡ 帰納的な方法で確かめたものも、演繹的な推論による証明が必要であることを理解させる指導を行う。
	③ 多数回試行の結果から得られる確率の意味を理解すること。	③ 与えられた資料から中央値を求めること。	➡ 代表値を用いることができるよう、度数分布表に整理させたり、ヒストグラムに表させたりする場面を設定する。
数学 B	① 連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になる説明をすること。	① 明るさを2倍にするためには、面積を半分にしなければならないことを数学的な表現を用いて説明すること。	➡ 伴って変わる2つの数量が反比例の関係であることを、関数関係を根拠として説明させる指導を行う。
	② 三角形の合同を根拠とし、図形の新たな性質を見出すこと。	② ある四角形がいつでも平行四辺形になるような作図の方法を説明すること。	➡ 実際に図形をかかせたり、立体をつくらせたりしながら、図形の性質に着目して考察させる指導を行う。
	③ 表や式からおうぎ形の中心角の大きさの求め方を説明すること。	③ 2つの資料の傾向をとらえ、数学的な表現を用いて説明すること。	➡ 中央値や最頻値など他の代表値に目を向けさせたり、グラフの形に着目させたりする指導を行う。
理科	① 背骨のある動物をセキツイ動物と表すこと。	① 天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶこと。	➡ 観測に当たって、風向計を自作させるなど、観察器具の原理や仕組みの理解を図る指導を行う。
	② オームの法則を使って、抵抗の値を求めること	② 質量パーセント濃度で溶質と水、それぞれの質量を求めること。	➡ 水溶液の濃度を調整する際、溶液の濃度が溶液の質量に対する溶質の割合で表せることを実感できるような指導を行う。

【小学校 国語A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
69.6	70.3	70.0	71.0	+1.0

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	53.0	53.0	0
書く能力	86.0	87.7	+1.7
読む能力	55.2	55.9	+0.7
言語についての知識・理解・技能	77.2	78.4	+1.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	53.0	53.0	0
書くこと	86.0	87.7	+1.7
読むこと	55.2	55.9	+0.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2	78.4	+1.2

【国語A：○成果と●課題について】

- ① 漢字を読む問題（「家に招く」，「信念をつらぬく」，「承知した」）の正答率は、いずれも全国を上回っており、特に「承知」は5.0ポイント上回っている。また、漢字を書く問題では、全3問のうち「シャワーをあびる」がほぼ全国と同率で、他の2問（「鳥のす」，「びょういんに行く」）では、3.4，5.4ポイント上回っている。
- ② 登場人物の相互関係を捉える問題の正答率は70.9%で、全国を3.4ポイント上回っている。
- ① 文の主語として適切なものを選択する問題の正答率は47.9%で、全国を5.2ポイント下回っている。また、文の型として適切なものを選択する問題の正答率は70.7%で、全国を1.0ポイント下回っている
- ② コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く問題の正答率は17.6%で、全国を2.2ポイント下回り、小学校国語A問題全問中で正答率が最も低い。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 板書事項で漢字を意識させたり、「書く活動」を授業の中に適宜位置付けたり、他教科の指導においても習得した漢字を意識して使う機会を増やしていくことが大切である。また、過去に出題された「承知した」（H20，90.0%），「びょういん」（H21，75.5%）は、今年度の正答率が高くなっている。
- ② 物語文の指導においては、これまで行動や会話、情景描写などから登場人物の心情や人物像、物語における役割を考えさせる指導が大切にされてきている。今後もこのような指導を継続するとともに、フレームリーディング的な読みも適宜取り入れていくことも大事である。この問題においても、昨年度の課題に基づいて出題されており、正答率を比較すると、3.8ポイント上回っている。
- ① 今年度も、主語と述語の関係が出題されており、全国の正答率より5.2ポイント下回っていた。「主語」と「述語」という用語が教科書に出てくるのは第2学年であるが、1学年より「だれが」、「どうした」というような形で指導されてきている。その際、カードやワークシートなどを用いて並び替えさせるなどの作業を取り入れるなど、視覚的に捉えさせながら理解を深めさせることが大事である。
 主語と述語は文の骨格をなすものであり、小單元だけでなく、どの学年においても文章を理解したり表現したりする際に、照応関係を意識させる指導を繰り返し行う必要がある。
- ② 登場人物の心情や筆者の考えなどを捉えさせる指導において、サイドライン法が用いられることがあるが、語句に引くのか文に引くのか、指示を明確にすることが大切である。本問題は、引用文のはじめの5文字を書き抜くものだが、サイドライン法が下地になっており、留意点は同じである。
 また、筆者の感想や意見を述べた文章においては、何段落構成になっているのかなど、筆者が伝えたいことは何か、どのような工夫をしているのか、文章全体の構成や表現の工夫を捉えさせることが大事である。さらには、「引用」という用語の指導とともに、引用文を入れた作文の指導も大切である。

【小学校 国語B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
63.9	65.9	65.4	66.1	+0.7

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	55.4	55.1	-0.3
話す・聞く能力	—	—	—
書く能力	61.1	62.2	+1.1
読む能力	68.1	68.4	+0.3
言語についての知識・理解・技能	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	61.1	62.2	+1.1
読むこと	68.1	68.4	+0.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

【国語B：○成果と●課題について】

- ① 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する際の工夫とその理由を書く問題の正答率は71.0%で、全国を4.4ポイント上回っている。
- ② 学校新聞の見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する問題の正答率は74.9%で、全国を4.1ポイント上回っている。
- ③ 学校新聞の割り付けとして適切なものを選択する問題の正答率は77.7%で、全国を3.1ポイント上回っている。
- ❶ 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら新聞の記事を書くことができるかどうかの問題では、正答率が32.2%で、全国を2.5ポイント下回っている。
- ❷ 図に示された内容を読み取った上で、それと関連する文章の内容を的確に押さえながら、自分の考えを書く問題では、正答率が39.9%で、全国を1.7ポイント下回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 登場人物の行動や、気持ちの変化を捉えた音読をさせる際は、理解したことを音読で表現させるだけでなく、音読で表現されたことから、さらに理解を深めることにつなげる指導が大切である。また、声の大きさや読む速さ、間の取り方という観点に基づいた表現の指導も大切である。
- ② 見出しは、記事の内容の要約やキーワードだけでなく、感想や意見を添える場合もあることや、読者の興味関心をひくために倒置法や呼びかけなどの表現法があることに気付かせるようにする。そのために、同じ題材を取り扱った記事の見出しの比較や効果について話し合う指導を大切にする。
- ③ 学習指導要領では、中学年の書くことの言語活動例として「学級新聞作り」が、高学年では読むことの言語活動例として「新聞の読み方」があげられている。実際に学級新聞作りを行うことによって新聞の特徴をつかむことや実際の新聞を取り上げて編集の仕方や記事の書き方に注意を向けるなど、体験的な学習や主体的な学習を取り入れながら指導していくことが大切である。
- ❶ 新聞記事の書き方に注意を向けさせるだけでなく、実際に書かせる指導も大切である。その際、事実と感想、意見などを区別させる必要がある。また、目的や意図に応じて、詳しく書いたり簡単にまとめて書いたりすることについて指導することも大切である。さらには、本などで調べたことやインタビューしたことを書く記事においては、引用の仕方や取材した相手の言葉の取り上げ方などについて、具体的に指導する必要がある。特に、インタビューでは相手の印象や自分が感じたこと、考えたことをメモしておき、記事に生かす指導も大切である。これらの点は、A問題における指導改善の方策❷とも関係してくる。
- ❷ 説明的な文章の指導においては、文章構成や要約、要旨などの指導だけでなく、筆者が考えていることや訴えたいことについてどのような表現上の工夫を行っているか捉えさせるようにする。特に、図やグラフなどが用いられている場合には、文章との関係や効果について捉えるように指導することが大切である。また、抽象的な内容を身近で具体的な事例と関係付けて考えさせることも大切である。

【小学校 算数A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
74.1	75.7	75.2	76.0	+0.8

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	—	—	—
数量や図形についての技能	77.2	77.4	+0.2
数量や図形についての知識・理解	73.6	75.0	+1.4

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	80.1	80.5	+0.4
量と測定	71.3	72.7	+1.4
図形	64.5	65.8	+1.3
数量関係	84.9	85.8	+0.9

〔算数A：○成果と●課題について〕

- ① 小数の加法の結果を、減法を用いて確かめる方法を理解しているかどうかをみる問題の正答率は 84.7%で、全国平均正答率を 2.7 ポイント上回っている。
 - ② 180° よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は 84.6%で、全国平均正答率を 3.3 ポイント上回っている。
 - ③ 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求める問題の正答率は 67.1%で、全国平均正答率を 2.6 ポイント上回っている。
- ① 末尾の位のそろっていない小数の減法の計算 ($6.79 - 0.8$) 問題の正答率は 68.4%で、全国平均正答率を 1.1 ポイント下回っている。
 - ② 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求める問題の正答率は 58.6%で、全国平均正答率を 0.6 ポイント上回っているが、ほぼ同等である。
 - ③ 示された三角形が二等辺三角形になる根拠とした円の性質を、選択できるかどうかをみる問題の正答率は 51.9%で、全国平均正答率を 1.3 ポイント上回っているが、今回調査で最も正答率が低い設問になっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 計算結果の「見積り」は、解決の見通しをもつことにつながるので大切である。また、「確かめ」は、計算の仕方や結果について振り返って判断できるので、形式的な確かめの処理だけでなく、加法と減法、乗法と除法の相互関係から振り返る活動を位置付け、確かめの処理の理解を深めるようにする。
- ① 「 $6.79 - 0.8$ を、0.01 をもとにした式に表す」など、数を相対的に捉え、整数の計算に置き換える活動を重視することで、同じ位どうしを計算することの理解を確実にするようにする。また、計算結果の見積りや結果の確かめの習慣を身に付けることができるようにすることも大切である。
- ② 解答類型 2 (150°) の反応率が 35.5%である。分度器を用いて 180° よりも大きい角を正確に測定できるように、 0° の線を基に時計回りに読んだ 150° と反時計回りに読んだ 30° のどちらを読んだらよいかを判断させる場面を位置付けることが考えられる。また、2直角 (180°) と 3直角 (270°) の間の大きさになると見当を付けさせたり、補角を用いて測定させたりする活動も考えられる。
- ③ 解答類型 2 (円周の長さは、直径の長さの約 3.14 倍) の反応率が 20.8%、解答類型 3 (1つの円の直径の長さは、半径の長さの 2 倍) の反応率が 15.2%である。円の中に三角形を構成する活動を通して、二等辺三角形になる場合とならない場合を比較させ、なぜ、円の中心と円周上の二点を頂点とした三角形が二等辺三角形になるのかについて考え、説明させるようにする。

【小学校 算数B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
42.7	46.4	45.0	45.0	±0.0

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	35.3	35.4	+0.1
数量や図形についての技能	58.7	57.3	-1.4
数量や図形についての知識・理解	74.9	76.1	+1.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	42.4	42.0	-0.4
量と測定	41.7	42.5	+0.8
図形	45.6	46.0	+0.4
数量関係	43.0	42.2	-0.8

【算数B：○成果と●課題について】

- ① 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解しているかどうかをみる問題の正答率は56.5%で、全国平均正答率を1.9ポイント上回っている。
- ② 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形(平行四辺形)を見だし、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は28.8%で、全国平均正答率を1.1ポイント上回っているが、無解答率は16.0%(全国は14.3%)である。
- ③ 切り上げて計算した結果が10000であることからわかることを選ぶ問題の正答率は64.9%で、全国平均正答率を2.9ポイント上回っている。
- ④ 20%増量(割合)した商品の内容量が480mL(比較量)であるとき、増量前の内容量(基準量)を求める式と答えを書く問題の正答率は11.0%で、今回調査の設問では正答率が最も低く、全国平均正答率を2.1ポイント下回っている。
- ⑤ 四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く問題の正答率は49.8%で、全国平均正答率を2.8ポイント下回っている。
- ⑥ 長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を書く問題の正答率は13.4%で、全国平均正答率を0.9ポイント上回っているが、今回調査の設問では無解答率が最も高く21.1%(全国は21.0%)となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② 解答類型4(「地図には平行四辺形があること」のみの記述)の反応率が24.1%である。身の回りのものや地図などから図形を構成する辺の関係や長さ、角に着目して図形を見いださせたり、見いだした図形のどのような約束や性質を用いれば、日常生活の事象を解決できるか見通しを立てさせたりするようにする。また、いくつかの情報を提示し、問題解決のために必要な情報を取り出す場の設定も必要である。
- ④ 解答類型6(480×0.8など)の反応率が30.5%、解答類型7(480÷0.2など)の反応率が36.7%である。基準量、比較量、割合の関係を数直線で表すなど、数量の関係を表現する活動を取り入れることが大切である。また、「20%増量」を「100%増量」に置き換えて整数の式「480÷2」をつくり、そこから「480÷1.2」と判断して求めることも考えられる。
- ⑤ 「四捨五入」を日常生活の場面と結び付け、実際の数に近い数を求め、結果の見通しをもつよさが実感できるように、形式的な処理に終わることなく、処理方法や結果に基づくどのような判断ができるかを説明できるようにしていく。
- ⑥ 既習の内容を積極的に活用し、根拠となる事柄を明らかにして考えを進めるためには、問題の条件や数値などを一部変更して新たな問題をつくる活動が考えられる。また、根拠が不足した説明を示して、解決のために必要な根拠を満たすよりよい説明に直す指導を重視することが大切である。

【小学校 理科問題 ー主として「知識」・「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
59.6	61.4	60.8	63.6	+2.8

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
自然事象への関心・意欲・態度	—	—	—
科学的な思考・表現	60.5	62.9	+2.4
観察・実験の技能	55.5	60.1	+4.6
自然事象についての知識・理解	68.6	70.5	+1.9

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
物質	57.4	59.9	+2.5
エネルギー	65.6	67.4	+1.8
生命	61.2	64.1	+2.9
地球	57.8	60.9	+3.1

〔理科：○成果と●課題について〕

- ① 顕微鏡の名称を書く問題では、正答率が68.9%で全国を7.3ポイント上回っている。【知識】
- ② 水が水蒸気になる現象について、その名称を書く問題では、正答率が67.2%で全国を8.7ポイント上回っている。【知識】
- ① メダカのみすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ問題では、正答率が69.9%で全国を8.1ポイント下回っている。【知識】
- ② 電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できるかどうかを見る問題では、正答率が73.1%と全国を0.4ポイント上回ってはいるが、指導の充実が求められる。【活用】
- ③ 水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題では正答率が52.3%と全国を0.6ポイント上回っているが、視点を変えて思考することに課題がある。【活用】

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 可能な限り、一人ずつ、あるいはペアなどの少人数で顕微鏡を使えるように台数を整備し、操作、観察の十分な時間を確保することが重要である。また、スクリーン上に拡大して提示するなど、適切な操作方法について確認する場を設定し、操作の確実性を高めることも大切である。
- ② 科学的な言葉や概念を理解しており、必要な用語を選択し、記述することができている。
 - ① 「雌雄が一緒にいないと産卵しない」事実を踏まえ、メダカの雌雄を見分けることの必要感をもってその方法を調べる活動が大切である。単なる記憶だけにならないように、雄の背びれや尻びれは雌の体を支えるのに役立つなど、「ひれ」の「かたち」がメダカのくらしと関連性があることに気付かせる指導も大切である。
 - ② データをまとめた表やグラフから考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを表すことができるようにするために、実験結果や資料の数値からどのようなことがいえるかを考察する時間を十分に確保することが必要である。その後、多面的に考察することが大切である。
 - ③ 見通しをもって実験を計画することや、ペア学習やグループ学習を適宜取り入れ、友達と考えを出し合う中で自分の予想や仮説を検討させる場を設定するようにする。

【中学校 国語A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
76.1	76.4	75.8	79.0	+3.2

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	79.7	83.1	+3.4
書く能力	73.6	78.4	+4.8
読む能力	86.1	88.6	+2.5
言語についての知識・理解・技能	72.9	75.8	+2.9

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	79.7	83.1	+3.4
書くこと	73.6	78.4	+4.8
読むこと	86.1	88.6	+2.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.9	75.8	+2.9

【国語A：○成果と●課題について】

- ① 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項における全19問中、漢字を書く問題（「アマったお金を貯金する」、正答率69.1%）1問のみが全国を1.8ポイント下回ったが、他の18問すべてが全国を上回っている。また、国語A問題全33問中の約4分の1に当たる8問の正答率が90%を超えている。
- ② 手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する問題では、正答率が67.1%で、全国を8.9ポイント上回っている。
- ① 単元の類別について理解しているかどうか、「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する問題では、「形容詞」「名詞」とも全国をそれぞれ4.5ポイント、3.0ポイント上回ってはいるが、「名詞」は正答率が36.7%と他の問題の正答率に比べ低くなっている。
- ② 用いられている表現の工夫として適切なものを選択する問題では、全国を0.3ポイント上回ってはいるものの正答率が58.6%であり、他の問題に比べ若干低くなっている。
- ③ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題の中で、「たなびく」は全国を2.6ポイント上回っているが、正答率は51.6%であり、他の問題に比べ低くなっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関した指導においては、小單元だけでなく、他の書くことや読むことの單元においても、語句理解や語彙の拡充を図る指導や、漢字の指導を継続していくことが大切である。特に、漢字については既習漢字を日常的に使用するように意識付けることが必要である。
- ② 手紙の書き方については、職場体験などにおける訪問先への礼状など、内容の指導だけでなく社会的に認められた一定の形式を整えて書く指導が大切である。
- ① 用言とそこから派生した名詞など、共通した部分をもつが異なる品詞に分類される単語については、例文を使って比較したり書き換えたりして、文の中で果たす役割の違いについて理解させる指導が大切である。特に、形容詞や形容動詞の語幹などに付いて、その「程度」を表すような意味の名詞を作る働きを持つ「さ」を取り上げ、派生語「一さ」を集めさせるなどの具体的な指導を行うことが大切である。
- ② 文学作品には、オノマトペ、言葉の並べ替え、比喩などの表現技法が見られる。より深い読解や優れた朗読につなげるためには、これらの表現技法の分析と理解が大切になってくる。指導に当たっては、文章の具体的な表現に即して、表現技法の名称を確認するとともに、その効果について考えさせることが大切である。また、表現技法の効果を考えて標語作り等に取り組みさせることも有効である。
- ③ 語句を文脈の中で適切に使うためには、多様な言葉に触れさせて理解を深める指導が大切である。そのためには、話や文章の中で実際に使われている語句の意味を辞書的な意味を基にして文脈の中で捉えさせたり、似た意味を表す別の言葉に言い換えさせたり、比較したりする学習が大切である。特に、言い換えや比較においては、語彙の拡充という観点からも大事にしたい。また、「虹がかかる」、「枯れ葉がまう」、「星がまたたく」などのような、古来より使われている日本語の美しさなどにも目を向けさせる指導も大切である。

【中学校 国語B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
66.2	66.3	65.8	68.7	+2.9

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	36.7	38.5	+1.8
話す・聞く能力	72.2	75.5	+3.3
書く能力	36.7	38.5	+1.8
読む能力	62.6	65.3	+2.7
言語についての知識・理解・技能	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	72.2	75.5	+3.3
書くこと	36.7	38.5	+1.8
読むこと	62.6	65.3	+2.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

【国語B：○成果と●課題について】

- ① 主として「活用」に関するB問題では、全9問中すべての問題において全国を上回っている。特に、状況に応じて、資料を活用して話すことができるかどうかをみる問題では、正答率が79.0%で全国より5.8ポイント上回っている。
- ② 目的に応じて文章を要約する問題と文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分けて要旨を捉える問題では、それぞれの正答率が85.9%、70.8%で、全国を3.3ポイント、3.0ポイント上回っている。
- ① 上記②に関連した問題で、複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを書く問題の正答率は25.8%で全国を2.8ポイント上回ってはいるものの、A問題、B問題を通して最も低い正答率である。
- ② 文章の構成や展開などを踏まえ根拠を明確にして自分の考えを書く問題では、全国を1.6ポイント上回ってはいるものの正答率は32.7%と低く、無解答率も8.3%と全問を通して最も高い。ちなみに、この設問三に関連した設問一、二の正答率は高く、それぞれ91.0%、85.6%となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 話すこと・聞くことの指導は、各教科の言語活動の充実を図るという点から、より実践的な指導が求められる。目的や相手、時間などの条件に応じて、発表に必要な情報を分類、整理して内容を組み立てる指導だけでなく、中心となる情報に加えて聞き手の理解を促すための資料の準備や活用における指導が大切である。
- ② 論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分、事実と意見を述べた部分とを区別させながら、内容を把握させる指導が大切である。それとともに、段落相互の関係、キーワード同士の関係の整理等を通して、要約させたり要旨を捉えさせたりする指導が大切である。
- ① 一つの説明的な文章を要約させたり要旨を捉えさせたりする指導とともに、複数の資料から得た情報を通して、感じたことや考えたことを明確にし文章としてまとめさせる指導が今後大切になってくる。その際、それぞれの資料に書かれていることを正確に理解させた上で、資料の相互の関連性を整理させたり、それらの資料と自分の考えとのつながりを確認させたりする指導が大事である。また、「どのようになっていると予想するか。」「どのように関わっていくか。」という問いに対する記述の仕方は、普段の授業の中で発問や指示を通して指導していくようにする。
- ② 本設問は、本文の最後の一文があった方がよいか、ない方がよいか、根拠を明確にして自分の考えを書くものである。最後の一文がある場合とない場合とで読み手が受ける印象の違いを捉えた上で、どちらの立場に立ち、話の展開を根拠に考えを書くことが求められている。
 文章の展開について自分の考えをもたせるためには、作品の全体像を捉えさせた上で、場面の役割等を分析的に考えさせる必要がある。作品に出会ったとき、登場人物や内容、表現の工夫などに目を向けさせることも大事であるが、ある場面や最後の一文を設定した作者の目的や意図や、その効果について考えさせる指導も大切である。

【中学校 数学A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
63.1	65.3	64.4	67.3	+2.9

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	—	—	—
数学的な技能	65.0	67.5	+2.5
数量や図形などについての知識・理解	63.9	67.2	+3.3

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	67.7	70.0	+2.3
図形	63.4	66.9	+3.5
関数	61.7	64.4	+2.7
資料の活用	63.0	66.5	+3.5

【数学A：○成果と●課題について】

- ① 等式 $2x - y = 5$ を y について解く問題の正答率は 69.5%で、全国平均正答率を 5.3 ポイント上回っている。
 - ② 与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める問題の正答率は 56.4%で、全国平均正答率を 7.1 ポイント上回っているが、無解答率が今回調査の設問で最も高く 17.0%(全国は 17.2%)である。
 - ③ 多数回試行(さいころを投げる)の結果から得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率は 65.3%で、全国平均正答率を 9.9 ポイント上回っている。
- ① 連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ問題の正答率は 45.4%で、全国平均正答率を 0.5 ポイント上回っている。
 - ② 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ問題の正答率は 27.9%で、全国平均正答率を 2.1 ポイント上回っているが、今回調査の設問では正答率が低くなっている。
 - ③ 与えられた資料(反復横とびの記録)から中央値を求める問題の正答率は 46.2%で、全国平均正答率を 0.2 ポイント上回っているが、無解答率は 10.8%(全国は 9.7%)となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② 「変域」の意味理解を図ることが大切である。その上で、与えられた x の変域から対応する y の変域を求めることができるようにするために、 x の変域の端点に対応する y 座標を求めるだけでなく、端点間のグラフ上の部分をなぞり、なぞったグラフの部分を y 軸に対応させて、 y の変域を視覚的に捉え、読み取る活動を取り入れることが考えられる。
- ① 解答類型 2(イ $0.05x - 0.03y$) の反応率が 31.0%である。問題解決の場面で方程式を利用できるようにするために、問題の中の数量に関する情報を表や図を使って整理し、相当関係にある数量を見いだして2通りの方程式に表せばよいことを理解する場面を設定することが考えられる。
- ② 解答類型 2(イ ①は証明できている ②は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになる)の反応率が 29.0%である。証明の必要性和意味についての理解を深められるようにするために、帰納的な方法でいくつかの図を使って事柄を確かめたものは「推測」で、演繹的な推論による証明が必要であることを理解できるようにすることが大切である。
- ③ 代表値の必要性和意味を理解し、代表値を用いて資料の傾向を説明することができるようにするために、データを収集し、度数分布表に整理したりヒストグラムに表したりする場面を設定することが考えられる。その際、分布が非対称であったり、極端にかけ離れた値があったりする場合を取り上げ、どの代表値を用いるとよいかを考察し、判断する場面を設定することが大切である。

【中学校 数学B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
40.7	43.0	41.6	45.1	+3.5

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	42.8	46.3	+3.5
数学的な技能	34.2	37.0	+2.8
数量や図形などについての知識・理解	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	63.2	67.7	+4.5
図形	39.0	42.7	+3.7
関数	30.7	33.3	+2.6
資料の活用	31.2	34.2	+3.0

【数学B：○成果と●課題について】

- ① 連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成させる問題の正答率は48.5%で、全国平均正答率を5.4ポイント上回っている。
- ② 証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ問題の正答率は48.2%で、全国平均正答率を5.7ポイント上回っている。
- ③ 底面になる円の半径が8cmのとき、表や式から側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する問題の正答率は34.8%で、全国平均正答率を4.0ポイント上回っている。
- ① 映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は12.6%で全国平均正答率を0.9ポイント上回っているが、今回調査の設問で正答率が最も低くなっている。
- ② 四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fを決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する問題の正答率は21.9%で、全国平均正答率を0.7ポイント上回っているが、今回調査の設問で無解答率が最も高く49.9%(全国は48.2%)となっている。
- ③ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題の正答率は26.0%で、全国平均正答率を2.7ポイント上回っているが、無解答率は26.9%(全国は29.7%)となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明できるようにするために、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、根拠を明らかにする場面を設定するようにする。また、予想した事柄を「連続する3つの整数の和(仮定)は、中央の整数の3倍になる(結論)」などのように、命題の形で表現する活動を取り入れることも大切である。
- ① 日常的な事象を数学的な解釈に基づいて考察し、事柄が成り立つ理由を説明できるようにするために、伴って変わる2つの数量が反比例の関係であることなど、関数の関係を根拠として事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、説明すべき事柄とその根拠を明確に区別し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明できるようにすることが大切である。
- ② 様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点をあて、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を設定することが大切である。その際、実際に図形をかいたり、立体を作ったりしながら図形の性質に着目して考察し、目的とする図形になるための条件を「用いるもの」として捉え、その「用い方」を明らかにして数学的に表現する活動を充実することが大切である。
- ③ 分布の中に極端に離れた値がある場合には、平均値だけではなく、分布を表したグラフに戻って中央値や最頻値など他の代表値に目を向けたり、グラフの形に着目したりする場面を設定することが考えられる。その際、判断の理由を互いに伝え合い、他者の主張を批判的に考察できるようにすることが大切である。

【中学校 理科問題 ー主として「知識」「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
53.7	53.1	53.0	57.4	+4.4

【観点別平均正答率 (%)】

理科：○成果と●課題について

区分	全国	仙台	差
自然事象への関心・意欲・態度	—	—	—
科学的な思考・表現	48.8	52.9	+4.1
観察・実験の技能	46.8	49.4	+2.6
自然事象についての知識・理解	70.6	76.6	+6.0

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
物理的領域	48.9	53.1	+4.2
化学的領域	56.2	60.9	+4.7
生物的領域	62.2	68.7	+6.5
地学的領域	46.4	48.5	+2.1

【理科：○成果と●課題について】

- ① 背骨のある動物の名称を答える問題では正答率が74.9%で全国を11.0ポイント上回っている。【知識】
- ② 水上置換法では、二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する問題では、正答率が60.2%と全国より7.2ポイント上回っている。【活用】
- ③ キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたことから見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができるかどうかを見る問題では、正答率が64.1%と全国より6.8ポイント上回っている。【活用】
- ① 天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ問題では49.4%で全国を0.8ポイント上回っているが、風向計の観測の技能が身に付いているとはいえない。【知識】
- ② 特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求める問題では、正答率が49.3%と全国より4.3ポイント高いが、正答率は低く、無解答率が19.4%もある。【知識】
- ③ 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ問題では、正答率が37.4%と全国より1.6ポイント下回っている。【活用】

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 異なる種類の生物の体のつくりや生活の様子をじっくり観察する活動を通して、多様性や規則性を発見できるようにすることが大切である。その際に正式な用語を使うよう日常化を図る必要がある。
- ② 教え合いや意見交換を充実するため、協働的な学習を行うことで、一人では気付かなかった考えを深めたり広めたりするようにし、主体的な探求活動を促すようにする。
- ③ 見いだした問題をそのまま課題に当てはめるのではなく、原因として考えられる要因をすべて挙げ、解決の見通しをもって課題を設定するように指導する。
- ① 天気の規則性を捉えられるように、継続的な観察や定点観測を年間指導計画に位置付けることが重要である。観測に当たっては、風向計を自作させることにより、観察器具の原理や仕組みの理解を図ったり、気象観測に対する意欲を高めたりすることが大切である。
- ② 水溶液の濃度を調整する際、溶液の濃度が溶液の質量に対する溶質の割合で表せることを実感できるような学習場面を設定することが大切である。
- ③ 考察などを検討して改善する際は、多面的、総合的に思考できるようにすることが重要である。この設問では、状態変化の概念が習得できていないことが考えられるので、水、水蒸気、状態変化、大気圧など関連する知識を整理しておくことが大切である。

資料 2

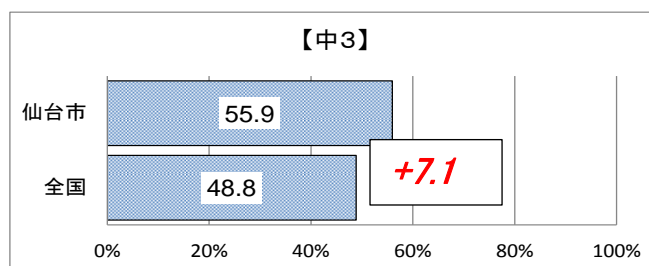
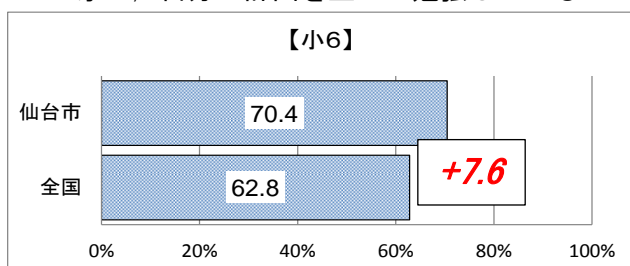
平成27年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の分析結果と指導改善の方策(概要)

※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。
(グラフの数値は、当てはまる、どちらかといえば当てはまるを合わせた割合)

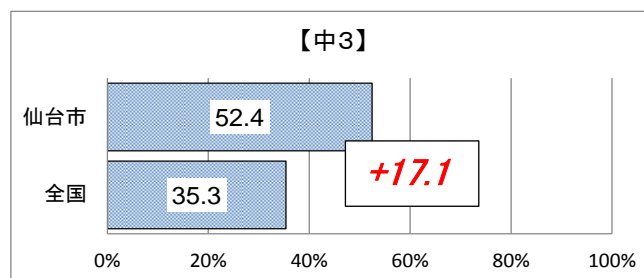
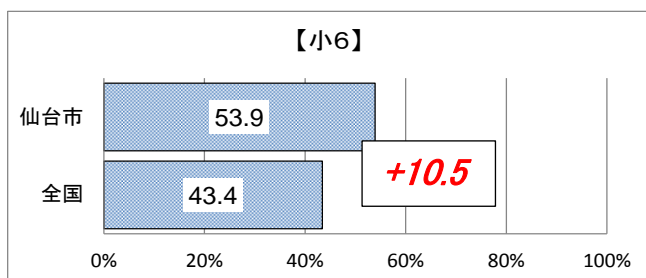
【分析結果 1】

家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の授業の予習や復習をしたりしている児童生徒の割合が高い。

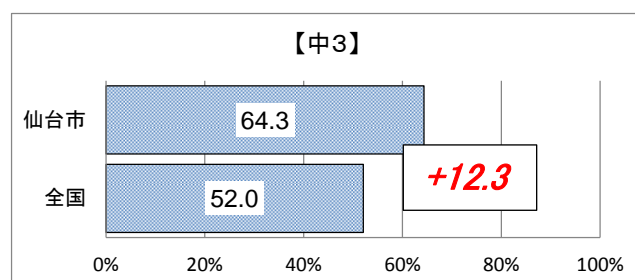
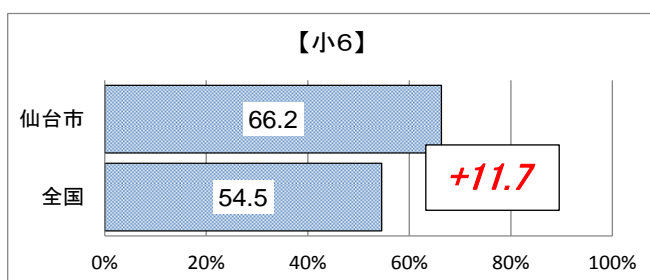
20. 家で、自分で計画を立てて勉強している



22. 家で、学校の授業の予習をしている



23. 家で、学校の授業の復習をしている



□指導改善の方策

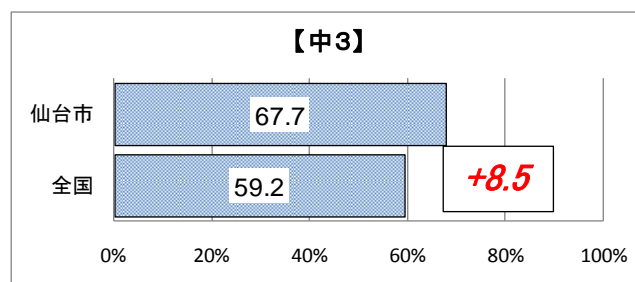
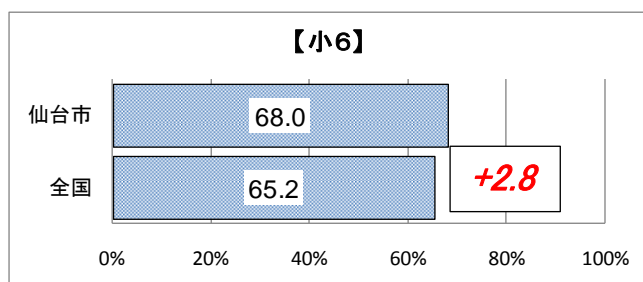
○計画的な家庭学習の推進

- ・ 「家庭学習ノート仙台」の活用や「学習の手引き」等の作成などを通し、児童生徒自身が自分の課題を認識して目標を立て、改善のための「学習計画」を立てるなど、家庭学習の習慣化を図るようにする。

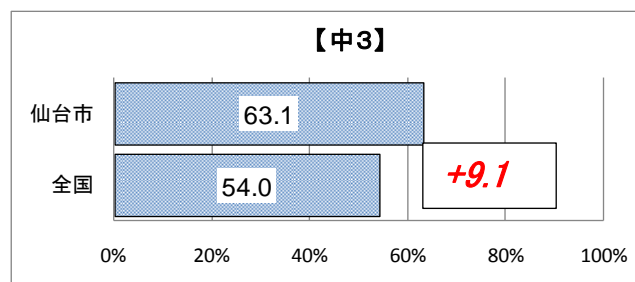
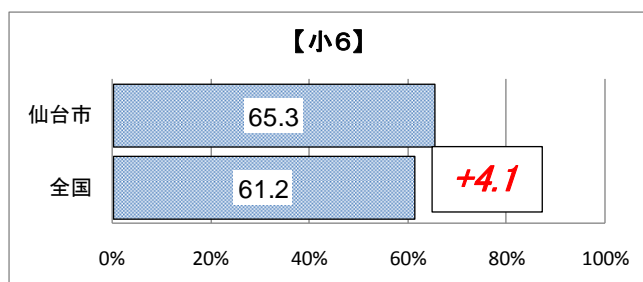
【分析結果 2】

国語では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童生徒の割合が高い。また、意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫したり、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いたりしている児童生徒の割合が高い。

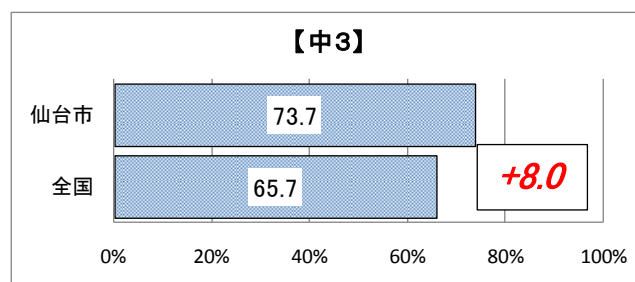
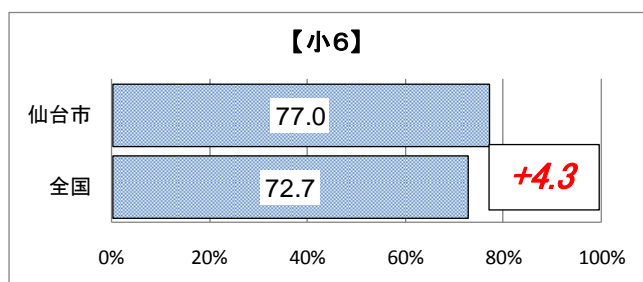
5 3. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



5 4. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している



5 5. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている



□指導改善の方策

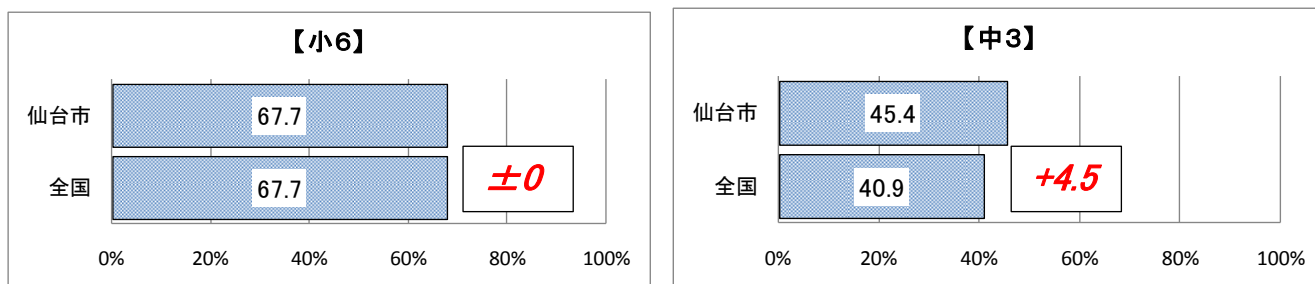
○全体的な底上げを意識した指導

- ・ 話す・書くという言語活動において、児童生徒が意欲的に取り組んでいることから、今後は、話す・書くことを苦手としている児童生徒に対して個別指導を行うなど、全体的な底上げを意識して指導する。

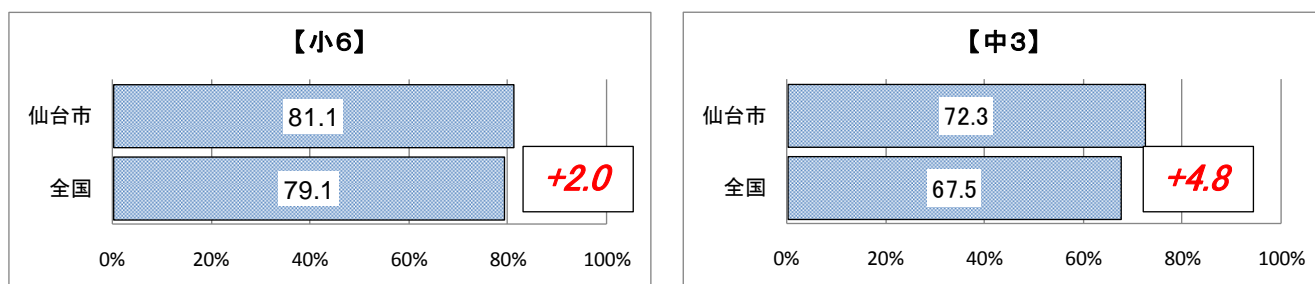
【分析結果 3】

算数・数学では、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えたり、問題を解くときもっと簡単に解く方法がないか考えたりする小学生は全国と同等の割合であるが、中学生は高い割合である。

6 3. 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



6 5. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



□指導改善の方策

○実生活とのつながりを意識させる

- 算数・数学においては、実生活との関連を図る指導をしたり、学習したことが将来、どんな場面で役に立つか伝えたりするなど、学習したことと生活のつながりを意識できるように、授業改善を図っていく。

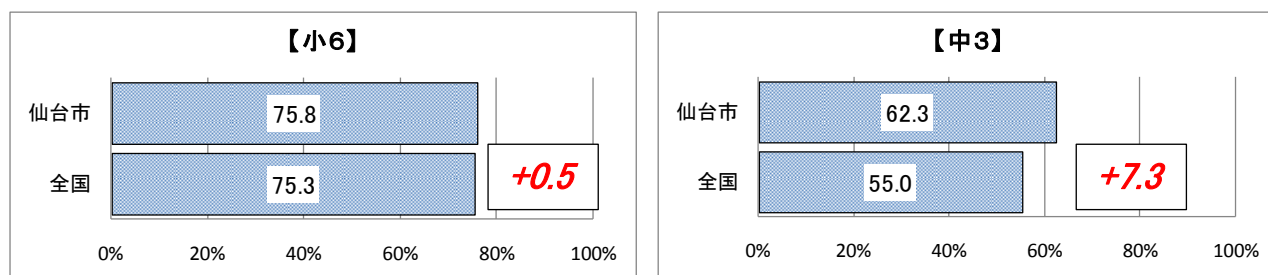
○小中の連携を生かした研修機会

- 小学校の教員が中学校の教員から学ぶ機会をもつなど、小中の連携を推進し、お互いの指導の良さを取り入れた授業を展開することで、確かな学力を身に付けさせると共に、教員の授業力の向上を図っていく。

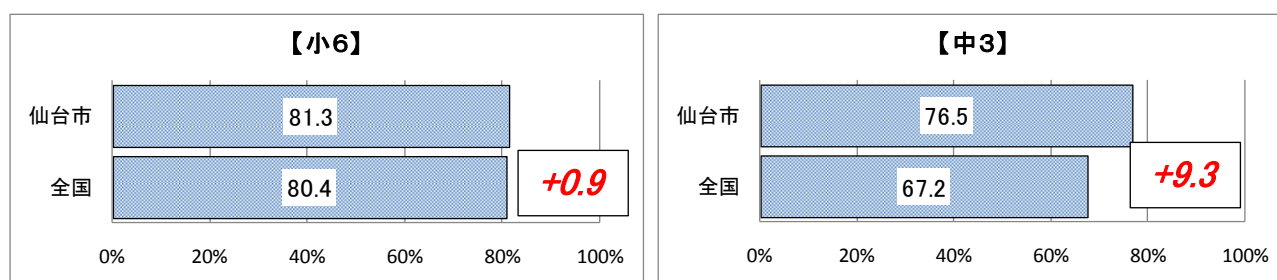
【分析結果 4】

理科では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の結果からどのようなことが分かったのか考えたりする小学生は全国と同等の割合であるが、中学生は高い割合である。また、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている児童生徒の割合が高い。

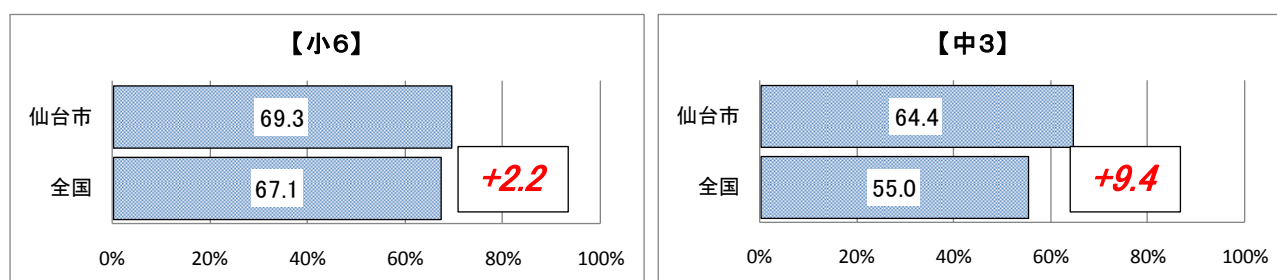
79. 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



80. 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



81. 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか



□指導改善の方策

○観察や実験の主体的取組

- 理科においては、問題解決的な学習活動を通して科学的思考力を育成するために、児童生徒が主体的に観察や実験を行うよう、授業改善を図っていく。

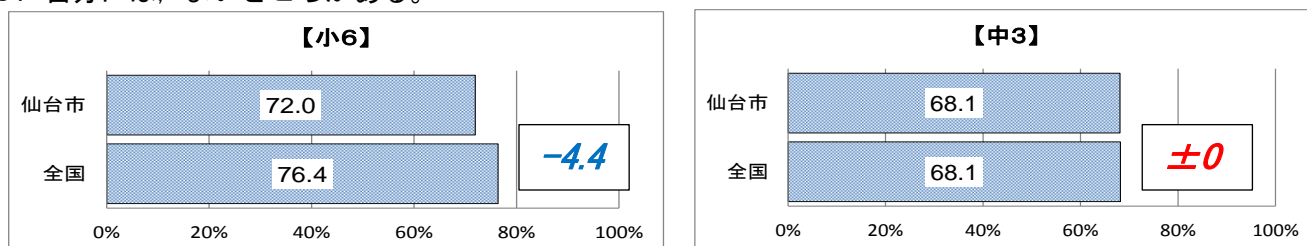
○観察や実験における言語活動の充実

- 小学校においては、観察や実験を行う際の、問題・予想・計画・結果・考察・振り返りを意識した授業展開を図り、分かったことを自分の言葉や学習した用語等を使って、まとめたり説明したりすることができるように指導する。

【分析結果 5】

自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は低く、中学校では同程度ある。

6. 自分には、よいところがある。



□指導改善の方策

○たく生き（たくましく生きる力学習プログラム）の実践

- ・ 自己肯定感を高めていくことができるように「たく生き授業プラン集」の実践を各学校の自分づくり教育年間指導計画に位置付け、計画的な実践を行っていくようにする。

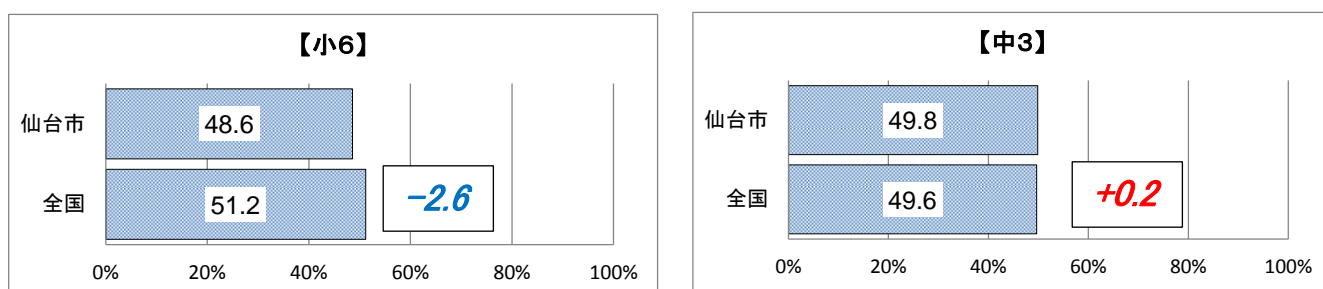
○児童生徒が意欲的に学校生活を過ごすことができる学級・学年づくり

- ・ 児童生徒が安心して自己表現ができるような学級・学年づくりを行い、児童生徒が学習活動等に主体的に取り組んだり、前向きな気持ちで学校生活を過ごしたりすることができるようにする。

【分析結果 6】

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思っている児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は低く、中学校では同程度あるが、児童生徒の半数が得意ではないと思っている。

7. 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。



□指導改善の方策

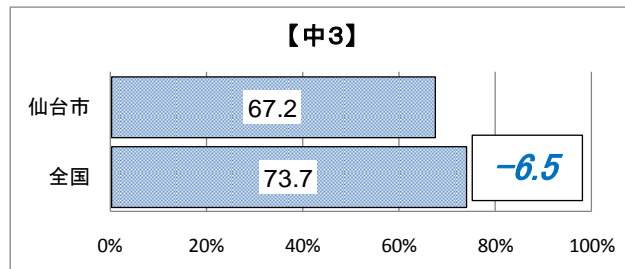
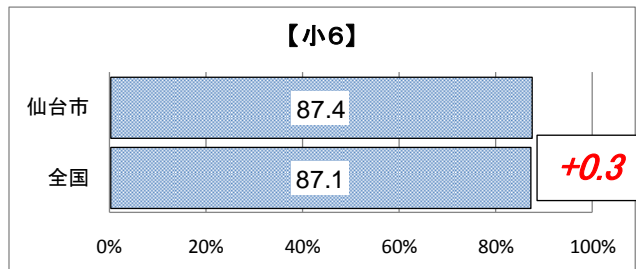
○自分の考えを伝える機会の意図的な設定

- ・ 他者と考えが違っていても自分の考えや意見を伝えることができるよう、教科・領域の学習活動をはじめ、日常生活の中でも自分の考えを伝える機会を意図的に設定していくようにする。

【分析結果 7】

授業のノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は同程度であるが、中学校では低い。

4.3. 5年生(中2)までに受けた授業のノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた



□指導改善の方策

○学習の振り返りの習慣化

- ・ 学習の見通しを持たせたり、めあてに対する振り返りをさせたりすることは、主体的に学ぶ姿勢を育て、自己認知力を育むことにつながる大切なものである。授業の中で学習の目標を設定し見通しを持たせたり、学習内容をまとめたり、めあてや学習への取り組み方などを振り返る時間を持たせていくようにする。

平成27年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の分析結果

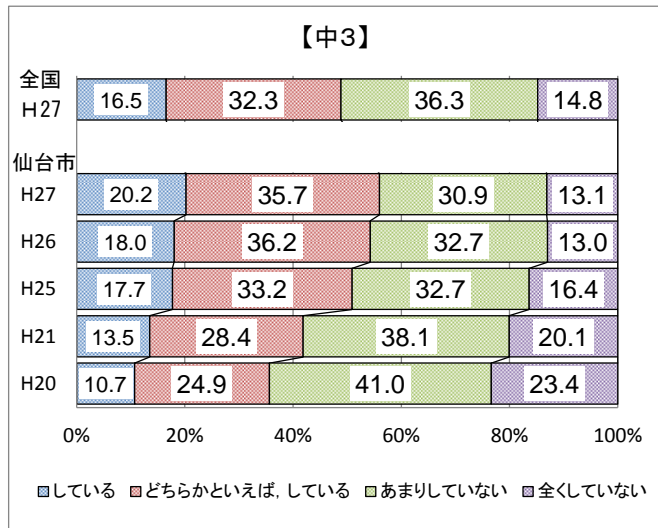
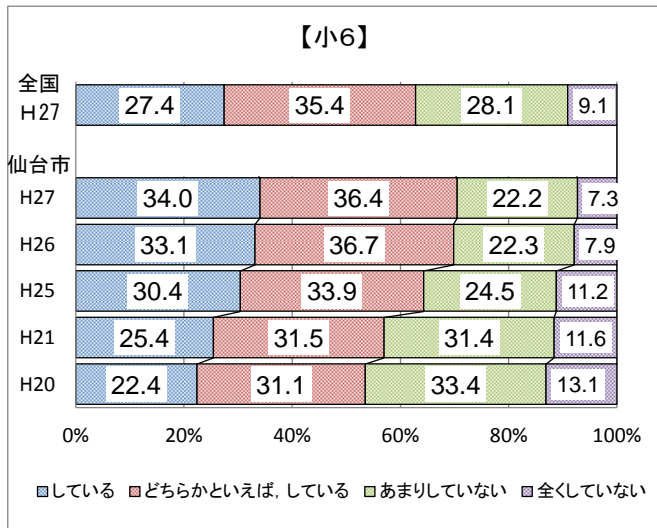
〈家庭学習〉

※H22～24は抽出調査のためデータなし

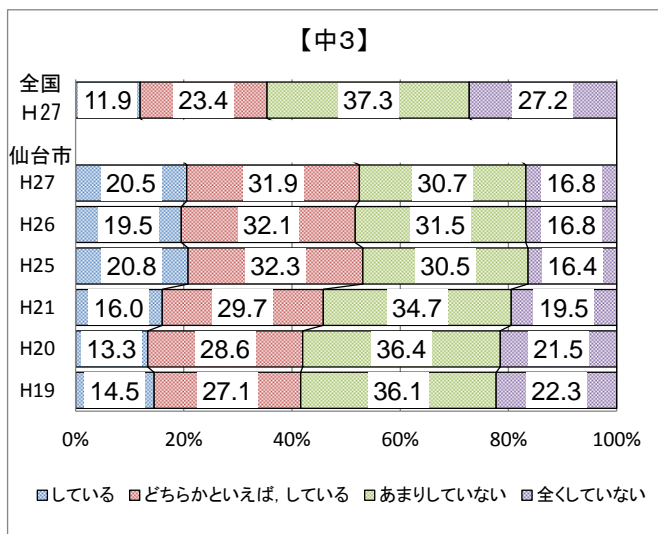
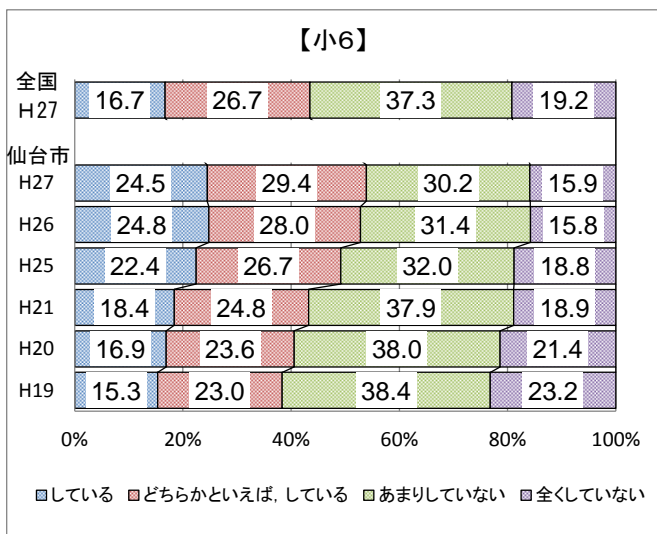
- 家庭での学習について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・家で、自分で計画を立てて勉強している（20）
 - ・家で、学校の授業の予習をしている（22）
 - ・家で、学校の授業の復習をしている（23）

◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国と比べて大きく上回っている

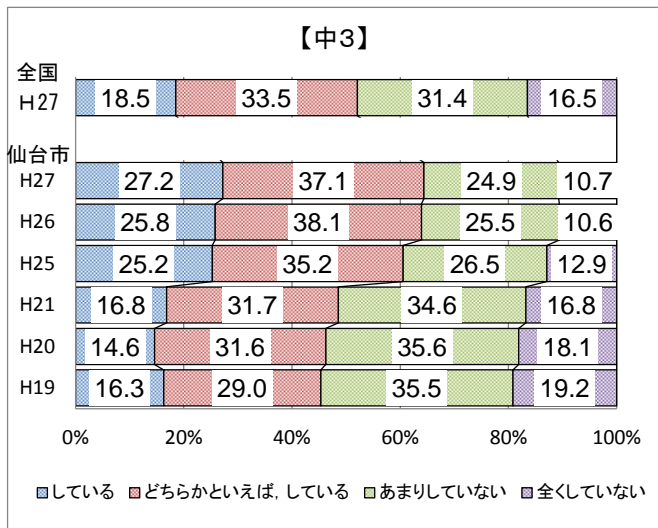
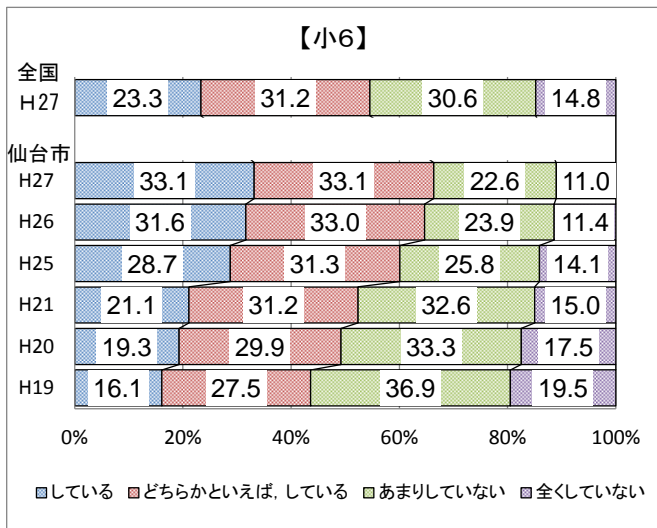
20. 家で、自分で計画を立てて勉強している



22. 家で、学校の授業の予習をしている



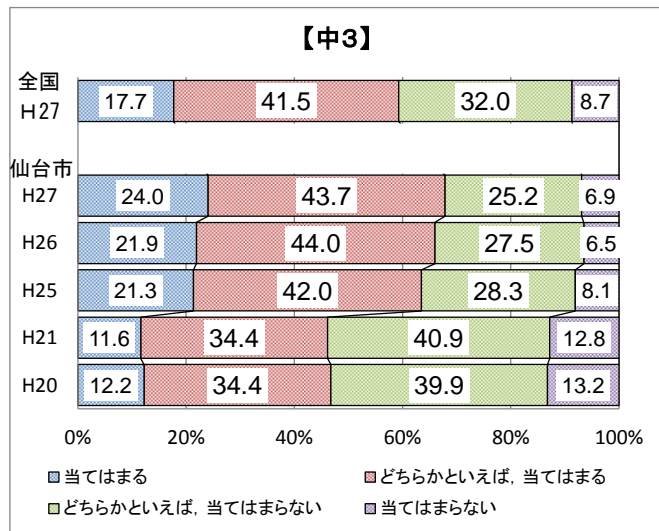
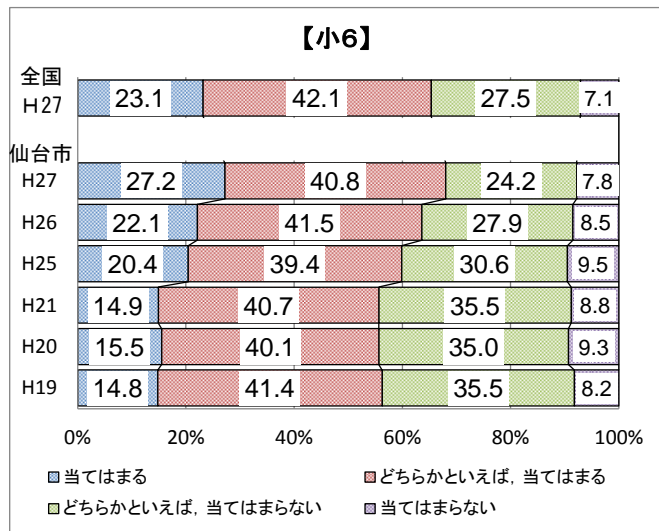
23. 家で、学校の授業の復習をしている



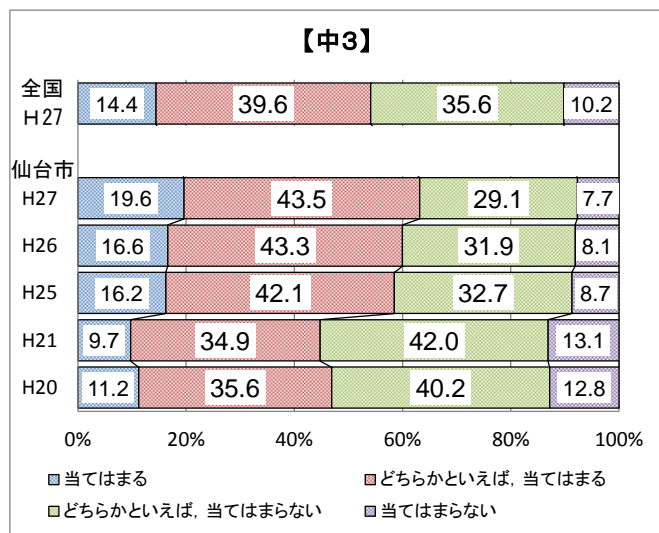
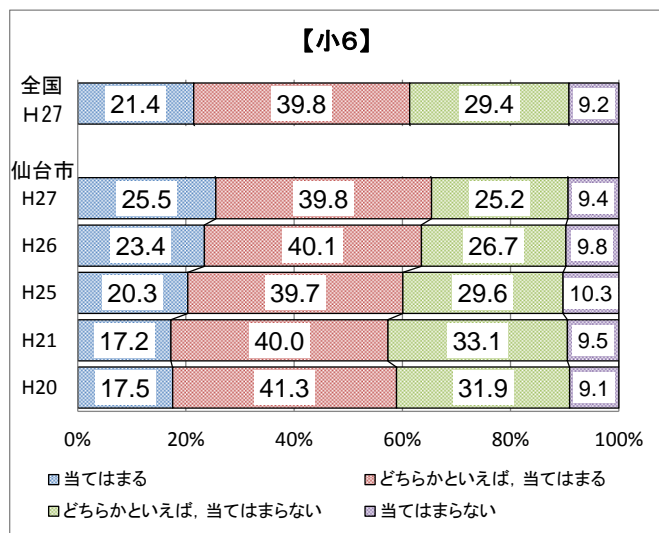
〈国語の学習〉

- 国語の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている（53）
 - ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（54）
 - ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（55）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国を上回っており、特に中学校では大きく上回っている

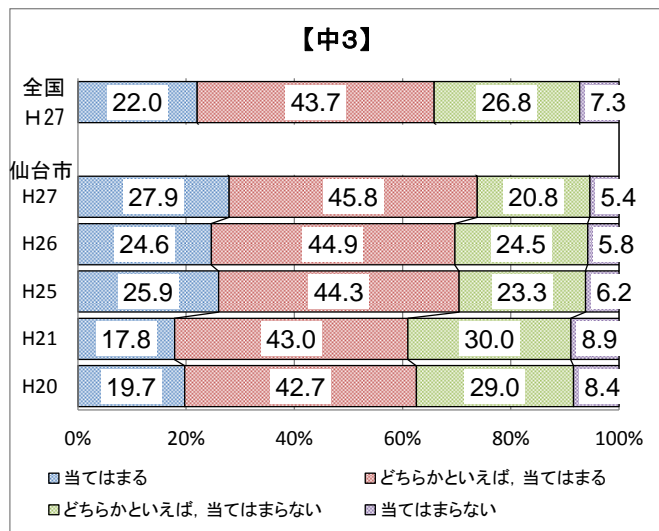
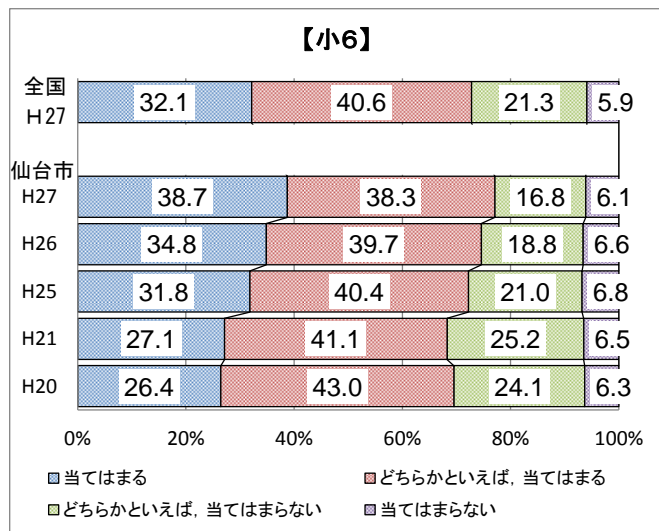
53. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



54. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している



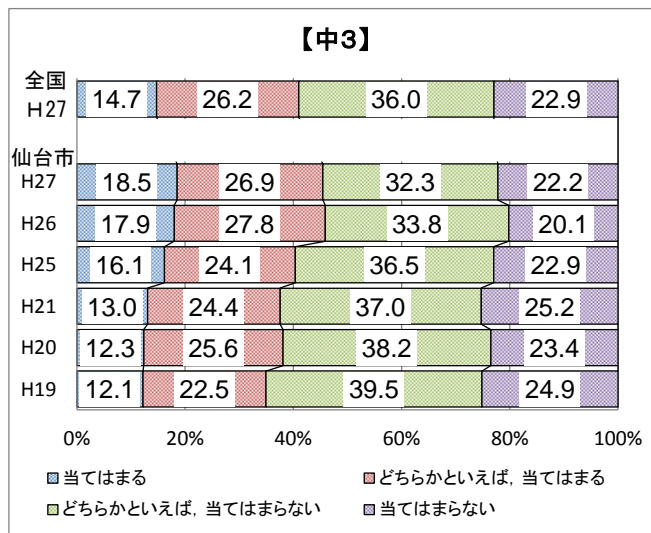
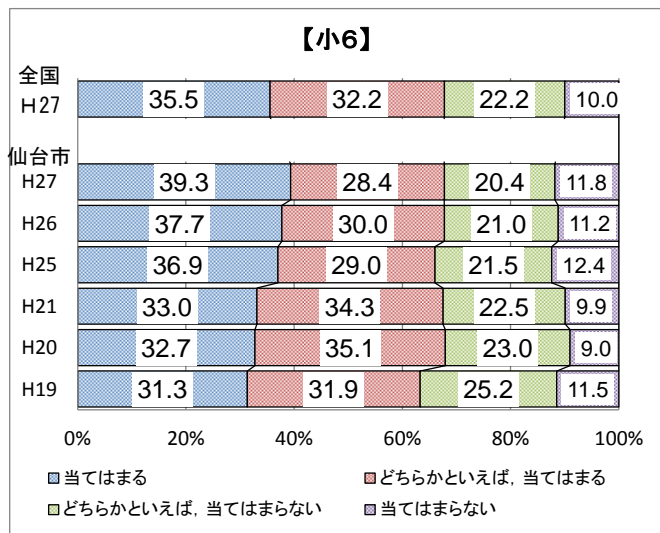
55. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている



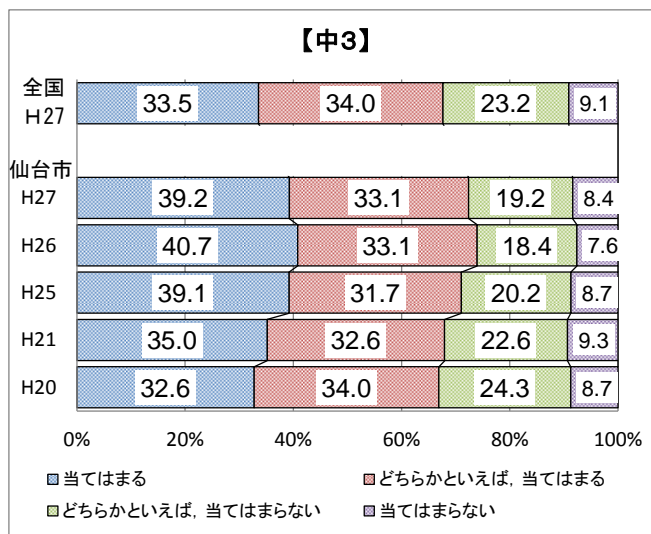
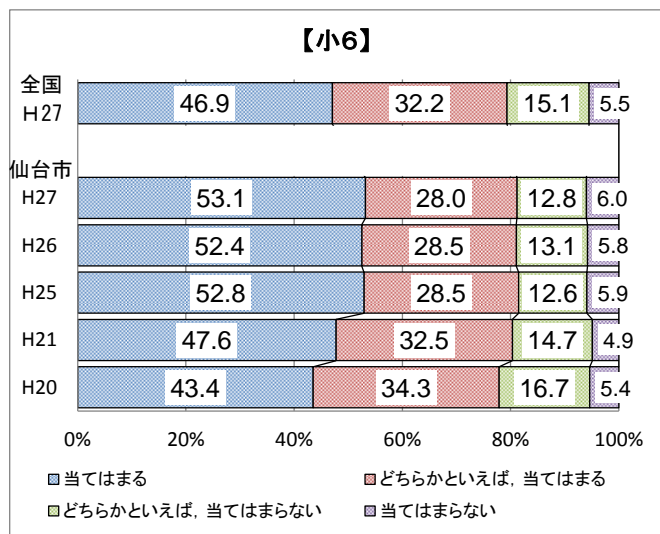
〈算数・数学の学習〉

- 算数・数学の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える（63）
 - ・算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える（65）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国を上回っている

63. 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



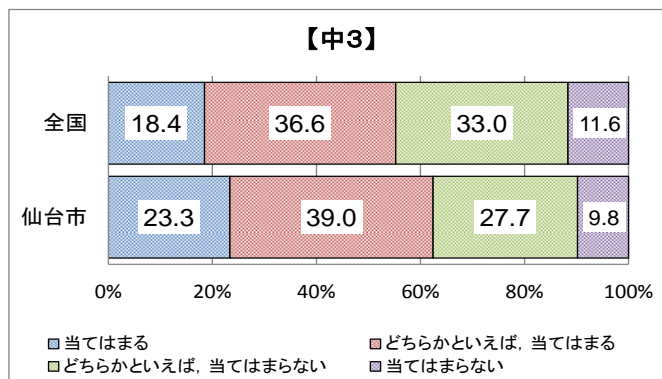
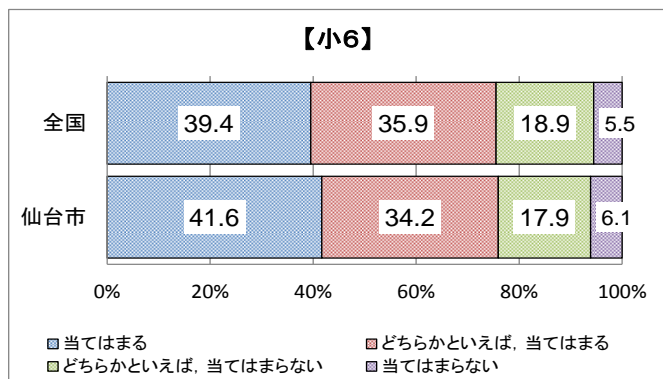
65. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える



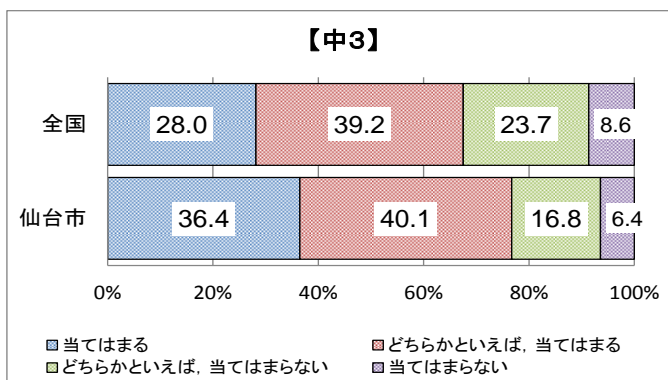
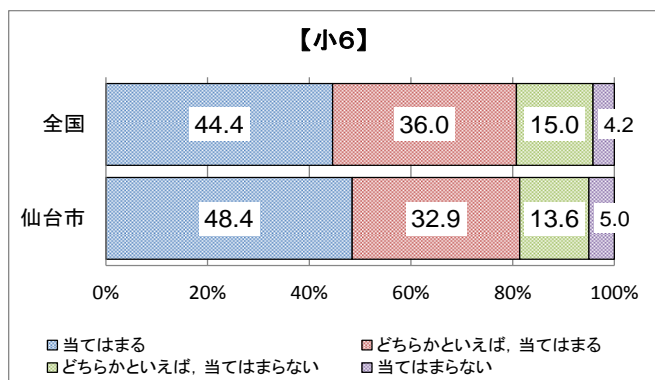
〈理科の学習〉

- ◇ 理科の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っており、特に中学校では大きく上回っている
- ・理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている（79）
 - ・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている（80）
 - ・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている（81）

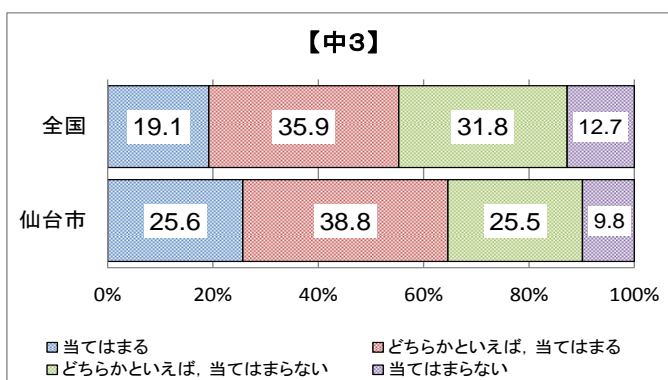
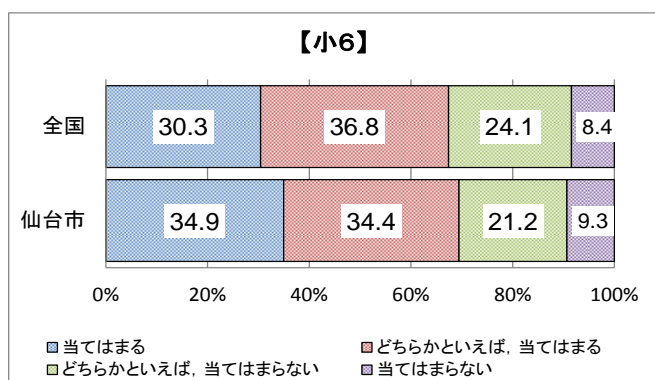
79. 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



80. 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



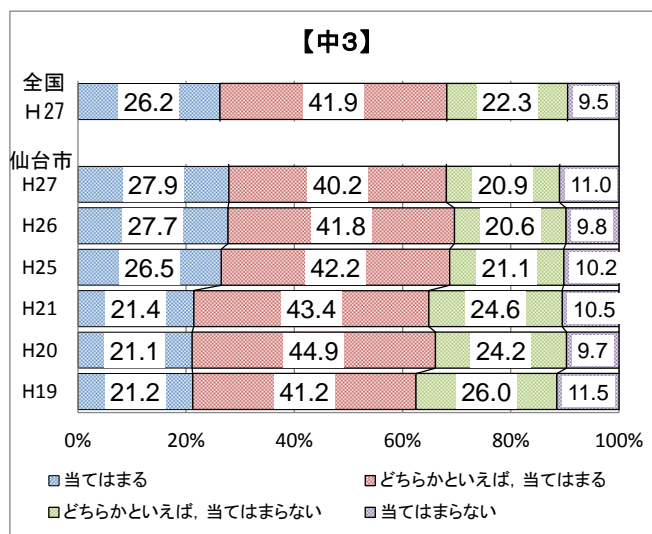
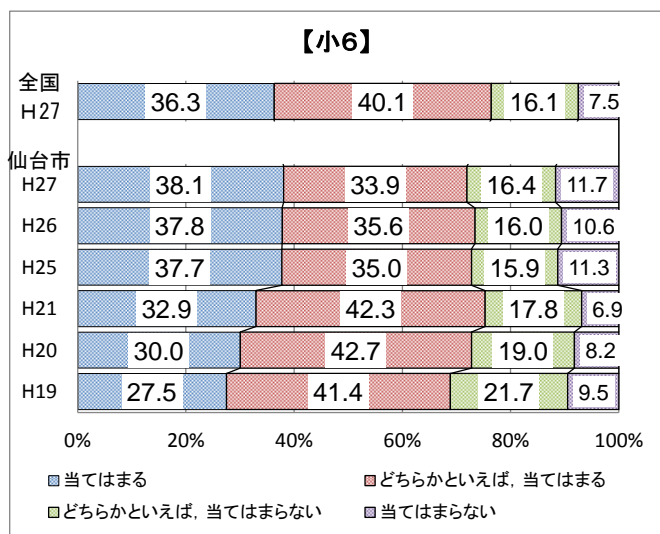
81. 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか



〈自己肯定感〉

○ 自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、同程度で推移している。
 ◇ 上記の項目について、児童生徒の割合は、中学校は全国とほぼ同程度であるが、小学校は下回っている。

6. 自分には、よいところがある



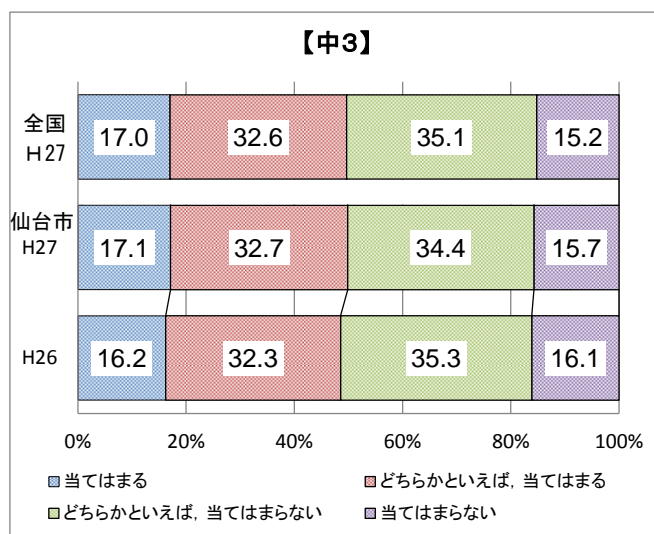
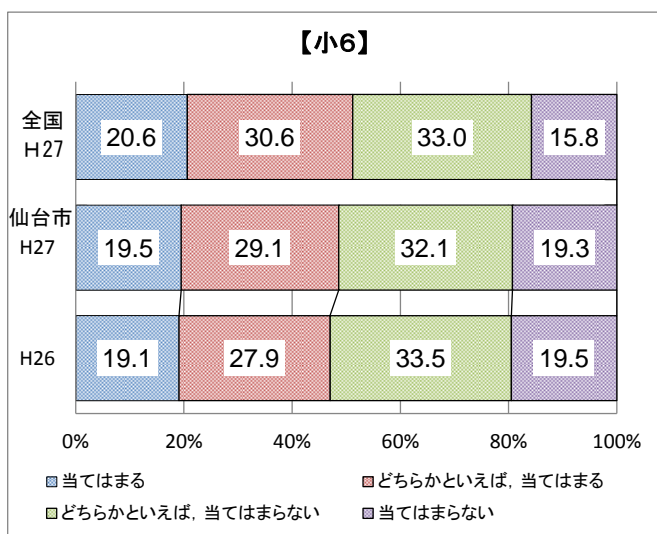
〈言語活動〉

○ 小学校5年生（中学校2年生）までに受けた授業について、以下と回答している児童生徒の割合は昨年度に比べて増加している

- ・ 友達の前で自分の考えや、意見を発表することは得意である（7）

◇ 上記の項目について、児童生徒の割合は、中学校は全国とほぼ同程度であるが、小学校は下回っている。

7. 友達の前で自分の考えや、意見を発表することは得意だ



〈授業〉

◇ 小学校5年生（中学校2年生）までに受けた授業について、授業のノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと回答している児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同程度であるが、中学校は下回っている。

4.3. 5年生（中2）までに受けた授業のノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた

